

6

入院患者の転倒・転落発生率

日病QI

- 1) 入院患者の転倒・転落発生率
- 2) 入院患者の転倒・転落による損傷発生率（損傷レベル2以上）
- 3) 入院患者の転倒・転落による損傷発生率（損傷レベル4以上）

指標の意義

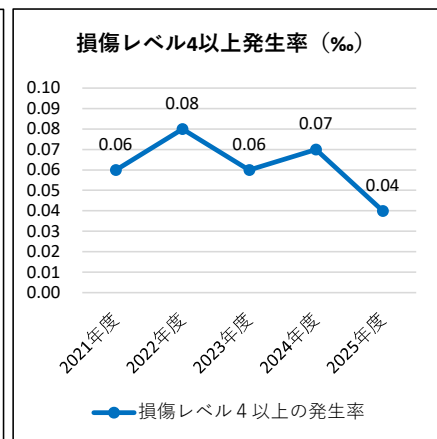
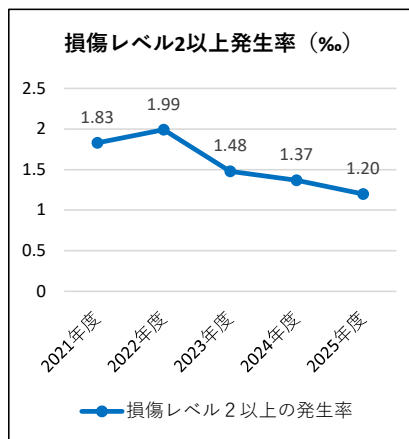
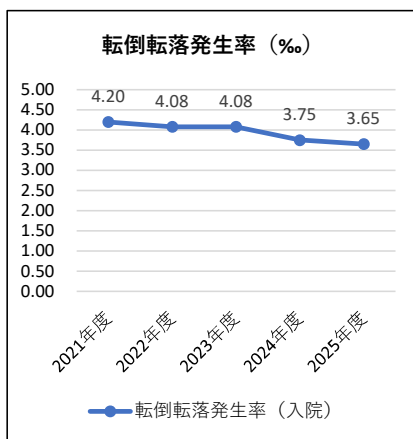
入院患者の転倒・転落の発生と外傷を予防するための指標です。

定義

- 分子**
- 1) 入院中の患者に発生した転倒・転落件数×1000
 - 2) 入院中の患者に発生した損傷レベル2以上の転倒・転落件数×1000
 - 3) 入院中の患者に発生した損傷レベル4以上の転倒・転落件数×1000
- 分母** 入院患者延数（人日）

当院の実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	(%)
転倒転落発生率（入院）	4.20	4.08	4.08	3.75	3.65	
損傷レベル2以上の発生率	1.83	1.99	1.48	1.37	1.20	
損傷レベル4以上の発生率	0.06	0.08	0.06	0.07	0.04	



指標実績の分析・評価

全体の発生率はごくわずかに上昇しているが、損傷レベル2以上や、4以上の発生率は減少しています。引き続き全体の発生率を含めて、緩徐であっても、減らすように新たに作成した転倒スコアを活用して、転倒危険性の高い患者を選別して対策を実践していきます。

指標の意義

65歳以上の入院患者の転倒・転落の発生と外傷を予防するための指標です。

定義

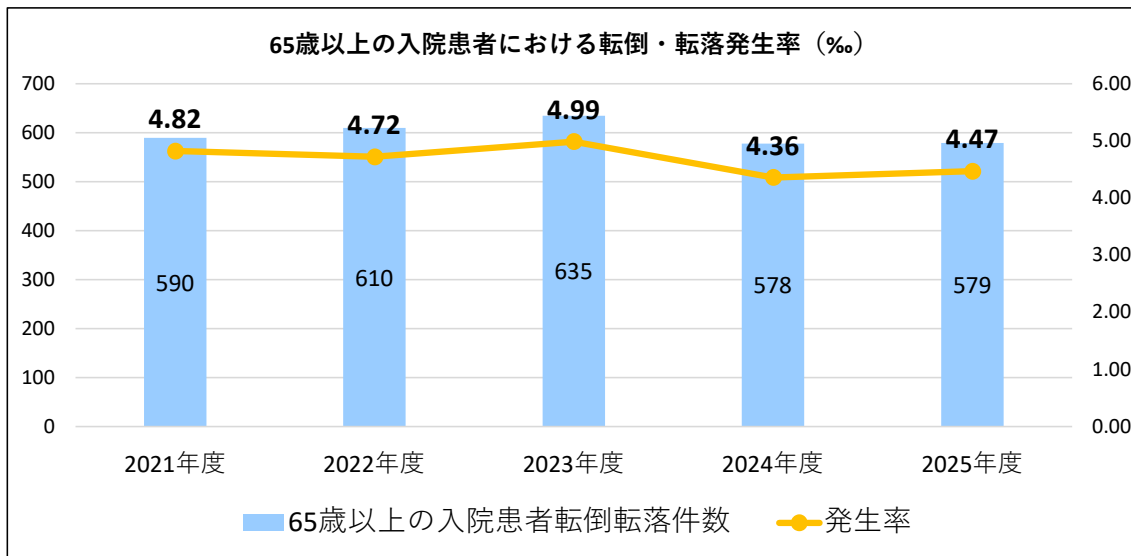
分子 65歳以上の入院中の患者に発生した転倒・転落件数×1000

分母 65歳以上の入院患者延数（人日）

当院の実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
65歳以上の入院患者転倒転落件数	590	610	635	578	579
65歳以上の入院患者延数	122,345	129,158	127,317	132,616	129,506
発生率	4.82	4.72	4.99	4.36	4.47

(‰)



指標実績の分析・評価

65歳以上の入院患者の転倒転落件数は、昨年と比較してわずかに上昇していますが、ここ5年間では緩徐ではあるが低下傾向となっているので、今後も発生率を減らすように新たに作成した転倒スコアを活用して転倒危険性の高い患者を選別して対策を実践していきます。

8 1か月間・100床当りのインシデント・アクシデント報告件数

日病QI

指標の意義

医療安全は、「失敗から学ぶ」姿勢が重要です。
重大事故のみならず軽微な（ヒヤリハット）事故を積極的に報告することにより、安全文化の醸成を図ることができます。

定義

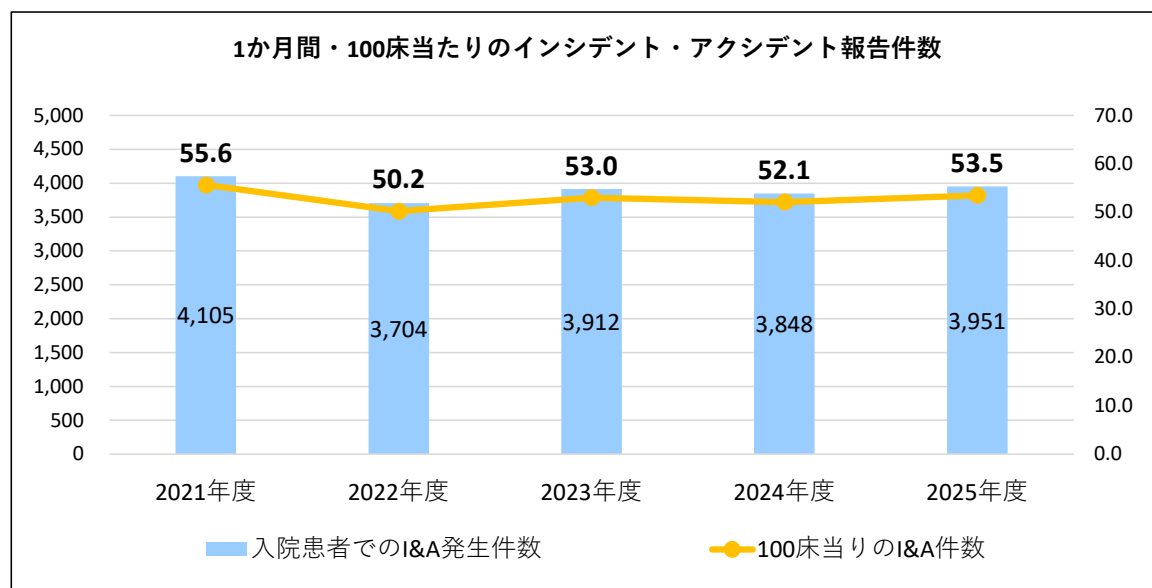
分子 月毎の入院患者におけるインシデント・アクシデント発生件数×100

分母 許可病床数 615床

当院の実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
入院患者でのI&A発生件数	4,105	3,704	3,912	3,848	3,951
100床当りのI&A件数	55.6	50.2	53.0	52.1	53.5

(件)



指標実績の分析・評価

インシデント・アクシデント報告件数は前年度より報告件数も増加してきています。引き続き積極的に報告するよう促していきます。

指標の意義

重大事故のみならず軽微な（ヒヤリハット）事故を報告する安全文化があるかどうかを図る指標です。一般に医師からの報告件数が少ないといわれていることから、医師の安全意識を知る指標です。

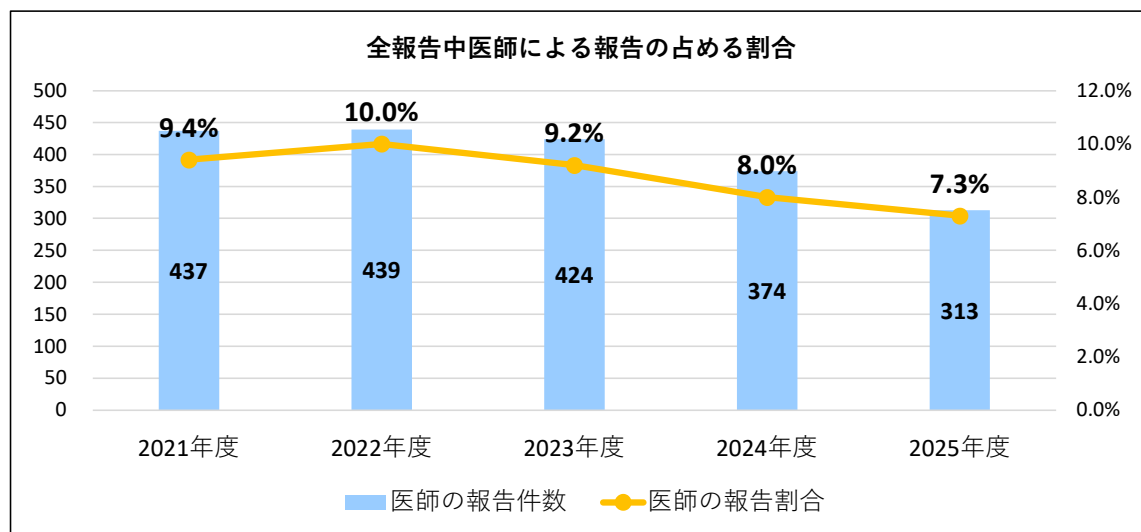
定義

分子 1年間の報告件数のうち医師が提出したインシデント・アクシデント報告総件数×100

分母 月毎のインシデント・アクシデント報告総件数

当院の実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
医師の報告件数	437	439	424	374	313	
医師の報告割合	9.4%	10.0%	9.2%	8.0%	7.3%	(%)



指標実績の分析・評価

医師の報告件数増加に向け診療科別のインシデント・アクシデント報告数を診療科責任者会議で報告し、積極的な報告を促す取り組みを実施しています。今年度は外来患者に関連するインシデント件数の報告が多かったため、報告件数は昨年を下回っています。引き続き、ヒヤリハット事例も含めて報告するよう働きかけていきます。

10

薬剤管理指導実施率（入院）

日病QI

指標の意義

薬剤管理指導は、薬剤師が医師の同意を得て薬剤管理指導記録に基づき、直接服薬指導、服薬支援その他の薬学的管理指導（処方された薬剤の投与量、投与方法、投与速度、相互作用、重複投薬、配合変化、配合禁忌等に関する確認並びに患者の状態を適宜確認する効果、副作用などに関する状況把握を含む）を行うものです。これにより、より安全に薬剤治療を実施することができ、医療の質改善につながります。

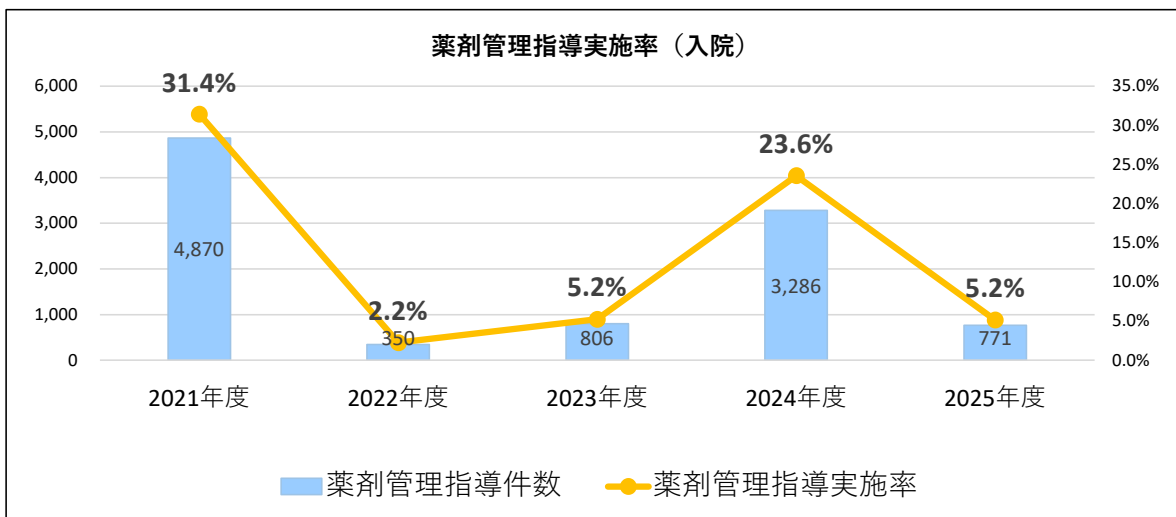
定義

分子 薬剤管理指導を受けた患者数（薬剤管理指導料1, 2）×100

分母 退院患者数

当院の実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
薬剤管理指導件数	4,870	350	806	3,286	771	(件)
退院患者数	15,498	15,561	15,374	13,940	14,967	(件)
薬剤管理指導実施率	31.4%	2.2%	5.2%	23.6%	5.2%	(%)
病棟薬剤業務実施加算の有無	無し	有り	有り	無し	有り	



指標の説明

病棟薬剤業務実施加算の算定再開により、薬剤管理指導料を算定できた件数は減少しましたが、薬剤管理指導を実施した件数は約6,800件（表に記載なし）と前年より1,000件程度増加させることができました。今後、病棟業務時間を増やし、より安全な薬剤治療を実施するよう努めていきます。

指標の意義

プレアボイドとは、「PREvent and AVOID the adverse drug reaction」の略称で、「副作用の未然回避」にあたります。実際には「薬剤師が薬物療法に直接関与し、薬学的患者ケアを実践して患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例」とされており、日本病院薬剤師会では、その事例を報告するプレアボイド報告制度があり、当院も積極的に報告をしています。

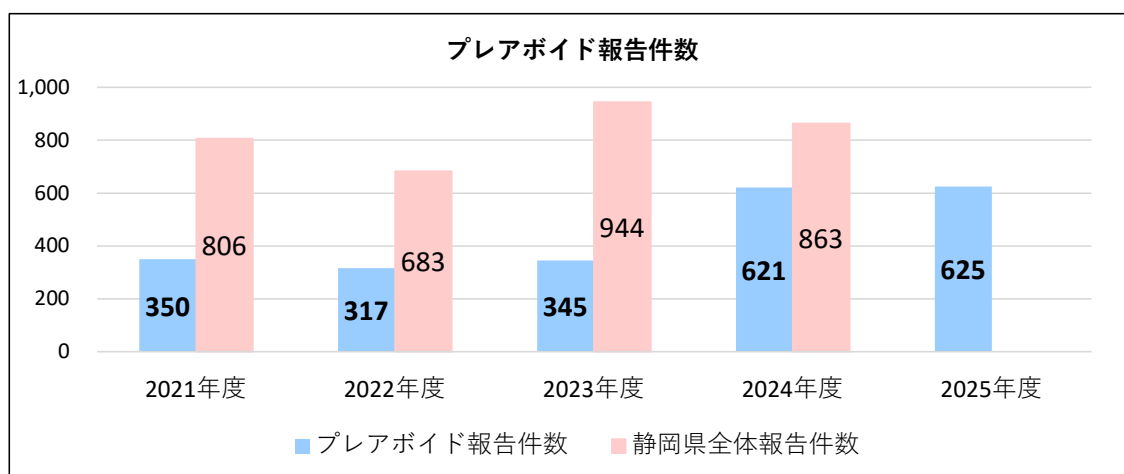
定義

年間の薬剤師のプレアボイド報告件数

当院の実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
プレアボイド報告件数	350	317	345	621	625	(件)
静岡県全体報告件数	806	683	944	863	—	

※日本病院薬剤師会雑誌 プレアボイド報告の概要



指標実績の分析・評価

プレアボイド報告も重要な薬剤師業務と位置づけ、取り組んでいます。2025年度からはプレアボイド報告が多く寄せられていたペメトレキセド投与時のビタミンB12注射剤の処方漏れに対して、代行入力を行うPBPMの開始につなげることができました。今後は、毎月プレアボイド報告されているB型肝炎スクリーニング検査のオーダー漏れに対する支援の検討や報告件数の少ないスタッフには声掛けをするなど、報告件数の維持に努めていきます。

指標の意義

医薬品安全管理者および薬剤師の病棟での役割の指標です。

定義

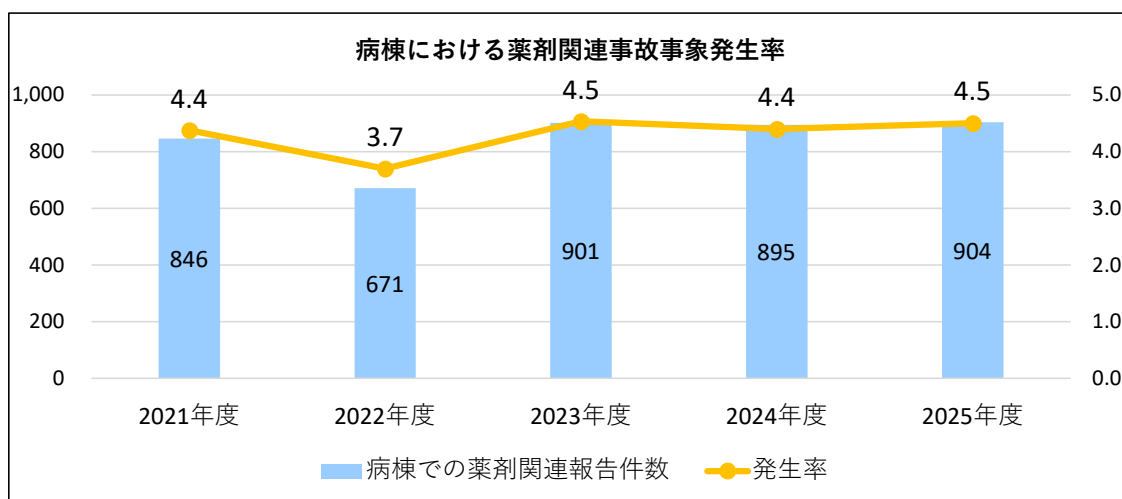
分子 病棟での薬剤関連のインシデント・アクシデント発生件数×1000

分母 入院延べ患者数（24時時点での在院患者数＋退院患者数）

当院の実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
病棟での薬剤関連報告件数	846	671	901	895	904
入院延べ患者数	193,222	181,557	198,625	203,474	198,982
発生率	4.4	3.7	4.5	4.4	4.5

（‰）



指標実績の分析・評価

2025年度の薬剤関連事故事象発生率は4.5‰で、前年と比較すると横ばいの状況が続いています。内服薬・注射薬・麻薬管理検討部会での対策強化を進めているものの、報告件数は904件と前年度（895件）から微増しています。2026年度は、発生事例の内訳分析をさらに深め、ハイリスク場面（麻薬投与時、術後指示変更時など）に対する重点的な予防策を講じていきます。